

身体障害者の問題について

— 施設・設備対策 —

34期生

I テーマ設定の理由

昨年は、現状の資料作りということで全般的なことを見たわけだが、今年は特に施設・設備対策ということを中心に、深く掘り下げていきたい。

II 研究方法

(1) 施設対策

A. 奈良県立盲学校訪問……7/16(木) 9:00~13:00

- 1) 授業参観
- 2) 校長先生に質問

B. 点字について

- 1) 点字の歴史
- 2) 点字の特質
- 3) 点字器
- 4) 点字の算数

(2) 設備対策 — 新大阪駅新幹線ホーム訪問……8/28(金) 12:00~14:00

(3) 王寺町役場訪問……8/28(金) 9:00~10:00

III 研究結果

(1) 施設対策

A. 奈良県立盲学校訪問……7/16(木) 9:00~13:00

中学部は海浜訓練のため、小学部の授業を見せてもらった。

外来治療室(はり、きゅう、あんま、マッサージの部屋)

高等部以上の生徒が勉強する

図書室…多数の点字の本が置いてある

1) 授業参観

<第1時限> 9:00~9:40

重複学級

目が不自由な上に、障害が重なっている(肢体不自由など)

朝のあいさつ

始まり…日直の子が立って「起立」の号令でみんなが立つ。

「先生お早うございます」「みなさんお早うございます」

日直の子が、みんなの名前(ひろし、てりゆき等)の書いた札を先生から一枚ずつ渡され、その子の所へ持って行く。そして渡す子の背中の中に来ると背中を3回たたき、たたかれた子は手を上げて「はい」と答え、札を受けとる。

※教室は、ぼくたちの教室の半分くらいの大きさ

机を中心に囲むようにして座っている

生徒5人に対し、先生3人

授業科目…生活、音楽、個別、体育、ゆとり、HR、遊び、作業

リトミック {音楽+体育のようなもの
聴覚の刺激によって行動(歩く、ジャンプ等)}

保健室へ……

教室の前でくつをはく

ろうかに点字ブロックはないが、感覚、手さぐりで分かるようだ。

服を脱いだり着たりするとき、1分計で計り、訓練しているようだ。

<第2時限> 9:50~10:30

学習発表会(おさらい会)

幼稚部年長組+小学校低学年

・レコードをかけ、打楽器(たいこ、タンブリン、トライアングル、鈴)に合わせ、全員で唱う。

・独唱(レコードに合わず)

話し合い

自分のしたいこと、意見をはっきり言えるように

<第3時限> 11:00~11:40

算数(6年生)→ B. 点字について

<第4時限> 11:50~12:30

プール

盲・ろう学校兼用

静岡県立盲学校にはいろいろな設備がついているようだ

1980年8月10日の朝日新聞より……

静岡県立盲学校に、全国初めて音による誘導装置がついたプールが完成。

(縦15m、横10m、深さ1.2m)

ゴールの壁から3mの底面からあわが出ていて、体で「ゴールが近い」ということが分かる。又、コースごとにちがった音を出す誘導装置がついている。

このプールには、そのような設備は全くないが、ロープでだいたい分かるようになっている。

歩行訓練

実際に目をつむって白棒を持ち、点字ブロックの上を歩いてみた。白棒は、両足から5cmずつ外側の少し前方をつけて歩く。点字ブロックのある所ではよく分かった

が、それがない所では、地面にでこぼこがあったりすると、とても怖く感じられた。慣れている人だと、風圧の感じなどで障害物が分かるそうだ。しかし、あまり低い障害物(足元)は分からないので、点字ブロックの上に物を置かれると、とても困るそうだ。

2) 校長先生に質問

Q: 学校行事について

A: できるだけ、普通の学校と同じようにしている。体育大会などは、記録によるもので、争ったりはしない。

Q: 「かわいそう」という言葉について

A: すでに見下げている。

人間には、波(でこぼこ)があり、それはその人の特性である。

しかし、「かわいそう」という考えから、「それなら、そうしないようにするためには、どうしたらよいのだろうか?」という考えが起こり、差別をなくす一番もとなる考えであるから、それはそれでよいのではなかろうか。ただ、いつまでもその考えでとどまらないで、どんどん発展させていってほしい。

Q: 国際障害者年について

A: 障害者を少しでも意識し、理解したように思う。それなりの成果はあった。

B. 点字について

1) 点字の歴史

① 墨字(一般に用いられている文字)の形を指でふれてみる方法

- ・文字を木片に彫る
- ・ろう板に押し型で刻印する
- ・糸を用いて文字にする

② ルイ・ブライユが戦争の暗号通信に使っていた12点点字(縦6点、横2点)を6点点字(縦3点、横2点)に改良し、1854年、フランスで公式文字として認められ、世界中に広まった。

③ 日本では、1890年(明治23年)、石川倉次が考案したものが採用された。

2) 点字の特質

<点字の決め方・法則>

- ・五十音の場合、各段・行の点の位置が決まっており、その組み合わせによってそれぞれの点字が決まる。(ただし、ヤ行・ワ・ヲ・ンは例外である)
- ・Pなどは、その字の形からとっている。

<点字と墨字の比較>

点	字	墨	字
指で継続的に読まれる		目で同時に読まれる	
文字の大きさが一定で形の変化が少なく横書きに限られている		文字の大きさや字体を変えたり横書きと、縦書きとを使い分けられる	

点 字	墨 字
音節文字の体系である	漢字・かな交じりの体系である
<ul style="list-style-type: none"> 一つの記号がいろいろに用いられる わりつけが制限される 書かれたものが重なる 	

日本点字一覽

五十音

	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ											
ワ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ						
ニ	イ	キ	シ	シ	ハ	ニ	ヒ	ミ	リ	リ	イ	キ	シ	シ	ハ	ニ	ヒ	ミ	リ	リ	イ	キ	シ	シ	ハ	ニ	ヒ	ミ	リ	リ				
ウ	ウ	フ	ス	シ	フ	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム	フ	ム			
エ	エ	テ	テ	テ	エ	エ	テ	テ	エ	エ	テ	テ	エ	エ	テ	テ	エ	エ	テ	テ	エ	エ	テ	テ	エ	エ	テ	テ	エ	エ	テ	テ		
オ	オ	コ	ソ	ト	オ	オ	コ	ソ	ト	オ	オ	コ	ソ	ト	オ	オ	コ	ソ	ト	オ	オ	コ	ソ	ト	オ	オ	コ	ソ	ト	オ	オ	コ	ソ	ト

数字及数学記号

数字	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
算術記号	+	-	x	÷	=	—	の	の	の	の

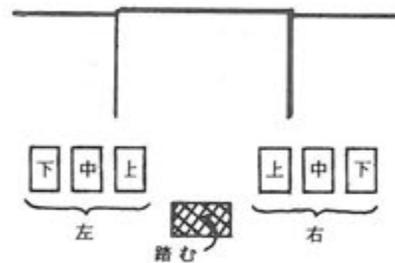
アルファベット

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z

● 濁音 () ● 半濁音 ● 促音符 (→) ● 長音符 (←)

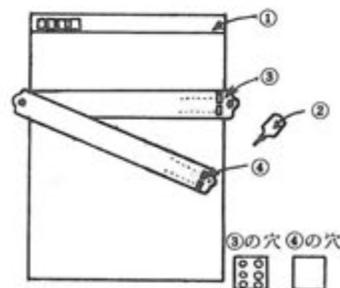
3点字器

● 点字印刷機 — 学校内に点字印刷室がある。



プラスチック製の二枚に折ったものに、左図の機械で打ち、その間に紙をはさみ、ローラでプレスするとできる。ただし一枚ずつしかできない。

● 点字板 — 生徒各自が持っている

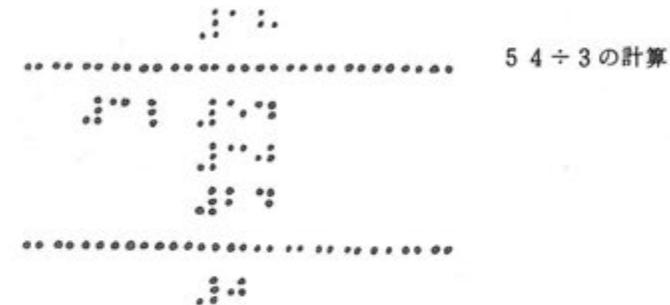


①は、紙を上ではさむためのもので、左端にある穴に頭などを打つ。③と④の間に紙をはさむ。その、③と④を上下に移動させながら、②で穴の所に打っていく。穴は32マスある。

この点字は、裏に現れてくるから、向きを逆に打たなければいけない。

4 点字の算数 — 盲学校第3時限の授業より

- 暗算、又はそろばん(盲人用…球の形が違う)を使う
- 分数の計算がやりにくい…横にしか並べられないので約分できない
- 暗記力が必要
- その子に応じたやり方で授業する
- 点字は墨字の1.5倍の早さ → 実際問題として、無理のようだ
- 点字のわり算



(2) 設備対策 — 新大阪駅新幹線ホーム訪問…8/28(金) 12:00~14:00

● ひかり号内にある障害者用座席について



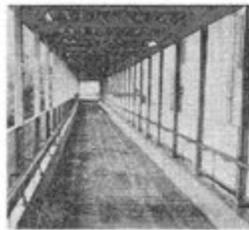
昭和50年2月から開始
以前は乗務員室だった。

申し込み方法

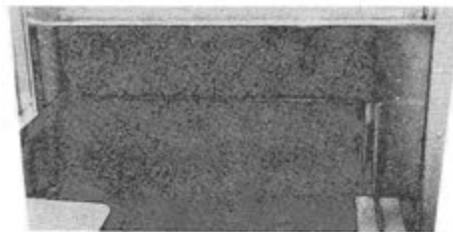
東京、名古屋、京都、新大阪、新神戸、岡山、広島、新下関、小倉、博多の各駅の間をひかり号で旅行する場合、乗車する1カ月前10時から2日前までに各駅の駅長室に電話するとよい。

割引 特急料金…全額支払い、運賃…半額支払い

- 駅には身障者用のトイレ、東口にはスロープがある
- 車イスを使用する人のためにエレベーターがあり、二階から、三階のホームへ上げてくれる



◀東口にある
スロープ



身障者用の
座席▶

[3] 王寺町役場訪問…… 8/28 (金) 9:00~10:00

A. 身体障害者・身体障害児の種類別人数

	肢体不自由	視覚障害	聴覚障害	内部障害	計
身障者	122人	76人	42人	44人	284人
身障児	2人	1人	1人	1人	5人
計	124人	77人	43人	45人	289人

B. Q&A

Q: 施設・設備対策について

A: 施設はなし。設備といっても、最近できた駅の立橋にある身障者用の通路(点字ブロック・手すり付き)のみ。

Q: 国際障害者年における活動について

A: 広報活動(ちらし・看板)のみ。

Q: 今後の計画について

A: 福祉センターを建設する予定。

IV 結論

本来、障害者の障害そのものが「不幸」なのではなく、好奇の目で見つめたり、学校、職場、公共交通機関からはじき出したりして、社会参加の機会や人間関係を持ちにくくしている社会の状況が、障害者を「不幸」にしているのではないだろうかと感じた。

V 総括

はくが、今回の研究テーマの中で一番の課題としていたことは、盲学校授業参観だった。中学生が海浜訓練に行っていたので、小学生の授業しか参観できなかったが、机を並べて始業から第4時限までたっぷり共に学ぶことができた。そこから身をもって伝わる感動のようなものを覚え、彼らの苦痛や喜びの一部を理解できたような気がする。又、現場の先生方の優しさや厳しい姿を見て、特別視しないことの大切さを教えられたようだ。

<参考文献>

改訂日本点字表記法

時刻表